

前立腺肥大症手術

湘南鎌倉総合病院・泌尿器科(神奈川県鎌倉市)

有名病院 この診療科の イチ押し治療



データ

徳洲会グループ(73施設)の基幹病院。

- ◆スタッフ数=常勤医師2人、非常勤医師2人
- ◆年間初診患者数(2015年)=385人(うち前立腺肥大症の患者約3割)
- ◆前立腺肥大症の年間手術件数(同)=25件

同科の診療のモットーは「インフォームドコンセント」。低侵襲治療の「低侵襲の治療」が「早期発見」の3点。低侵襲の検査・治療では、低侵襲手術として尿道に内視鏡を挿入し、肥大した前立腺を高周波侵襲の検査・治療では、こめすで切除する「TURP」でも痛みの少ない軟性Pが行われていました。膀胱鏡(内視鏡検査)や腹しかし、低侵襲手術という腔鏡手術などをいち早く取りもすすべての患者さんが受け入れられた。そして、今から実施を始めたのが「前立腺肥大症に対する最新式レーザー手術(PVP)」。だ。同科の三浦一郎部長(顔写真)が言う。「尿の出が悪い」「頻尿」「残尿感」などの症状が出る前立腺肥大症の治療の第1選択肢は内服薬で、前立腺の手術は出血

「出血量が少ない」

最新式レーザー手術なら 対象外だった患者も 手術できる



「PVPの大きな利点は、禁が起ることほとんどない。」

「PVPの大きな利点は、禁が起ることほとんどない。」

「PVPの大きな利点は、禁が起ることほとんどない。」

術中の出血量が非常に少ないことです。ですから、抗凝固薬などを服用している患者さんでも安全に手術をすることが出来ます。術後の尿道カテーテルも1日で取れて、低ナトリウム血症などの合併症のリスクも少ない。TURPの課題が、ほとんどクリアできるようにになりました」

神奈川県内では2番目の導入

「PVPは2011年に保険適用になっており、治療費は入院料などすべてを含め3割負担でおおよそ12万円だ(高額療養費制度が利用できる)。」

「PVPの難点を挙げるとするならば、蒸散するので組織を採取できないことです。そのため、PSA検査(腫瘍マーカー)で少しでもがんの疑いがあれば、必ず生検でがんがないことを確認してから手術をします」

「PVPのレーザー機器の国内の導入台数は約80台(2016年1月時点)」。同科は、神奈川県内の医療施設で2番目の導入になるという。

「これまで尿閉になっても手術を受けられなくて、薬物療法を続けてこられた患者さんにはたくさんいます。PVPはそんな患者さんにも手術の可能性を広げることが出来ます。急性尿閉は、総合感冒薬(かぜ薬)の使用や飲酒が原因のことも多いです。PVPで手術をすれば、薬物療法をやめられるだけでなく、お酒も安心して飲むことが出来ます」